

■スイス：早期脱原子力をめぐり 11月27日に国民投票へ

2016年10月11日付の報道によると、スイスは脱原子力の実施の前倒しをめぐり、2016年11月27日に国民投票を実施することとなった。この国民投票は、スイス自由緑の党と環境団体グリーンピースの要求で実施するもので、スイス北部のベツナウ原子力発電所1、2号機と、ベルン西郊のミューレベルク原子力発電所を2017年までに閉鎖し、残る2カ所の原子力発電所もそれぞれ2024年、2029年に閉鎖することを求めている。スイス政府は2011年の福島事故を受け既存の原子炉（5基）を段階的に廃止することを決めており、ミューレベルク原子力発電所は2019年に、他の原子炉は2034年までに閉鎖される予定となっている。この国民投票について、ドリス・ロイトハルト環境・エネルギー大臣は、急速な脱原子力による発電容量の減少を再生可能エネルギーで代替することは不可能で、ドイツの石炭火力への依存が高まる、と反対する考えを示している。